

日本医科大学(前期) 数学

2020年2月2日実施

1

以下の文章の ア ~ ト に適する 1 以上の整数を解答欄に記入せよ。
 実数の定数 a, b ($a > 0$) に対して, 2 次関数 $f(x) = 3ax^2 + 2x + b$ が

$$\int_{-1}^1 f(x)dx = 0, \quad \int_{-1}^1 \{f(x)\}^2 dx = 6$$

を満たすとき, $a = \frac{\text{ア} \sqrt{\text{イ}}}{\text{ウ}}$, $b = -\frac{\text{エ} \sqrt{\text{オ}}}{\text{カ}}$ である.

$$\int_0^1 \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx = \frac{\text{キ}}{\pi},$$

$$\int_0^1 \cos^2\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx = \frac{\text{ク}}{\text{ケ}},$$

$$\int_0^1 x^2 \cos^2\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx = \frac{\text{コ}}{\pi} - \frac{\text{サ}}{\pi \text{シ}}$$

であることを用いれば, 定積分

$$\int_{-1}^1 \left\{ \frac{\pi}{2} \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) - (pf(x) + q) \right\}^2 dx$$

が最小となる定数 p, q の値は $p = \frac{\text{ス} \sqrt{\text{セ}}}{\text{ソ}} - \frac{\text{タ} \sqrt{\text{チ}}}{\text{ツ} \pi \text{テ}}$, $q = \text{ト}$ となる.

解答

$$\begin{aligned} \int_{-1}^1 f(x)dx &= 2 \int_0^1 (3ax^2 + b)dx \\ &= 2(a + b) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int_{-1}^1 \{f(x)\}^2 dx &= 2 \int_0^1 \{9a^2x^4 + (6ab + 4)x^2 + b^2\} dx \\ &= 2 \left(\frac{9}{5}a^2 + 2ab + \frac{4}{3} + b^2 \right) \end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{cases} a + b = 0 & \dots\dots ① \\ \frac{9}{5}a^2 + 2ab + \frac{4}{3} + b^2 = 3 & \dots\dots ② \end{cases}$$

② より,

$$27a^2 + 30ab + 15b^2 = 25 \iff 15(a+b)^2 + 12a^2 = 25$$

① を代入して $a^2 = \frac{25}{12}$ となり, $a > 0$ より $a = \frac{5\sqrt{3}}{6}$.

また, $b = -a = -\frac{5\sqrt{3}}{6}$ である.

$$\begin{aligned} \int_0^1 \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx &= \frac{2}{\pi} \left[\sin\left(\frac{\pi x}{2}\right) \right]_0^1 \\ &= \frac{2}{\pi} \\ \int_0^1 \cos^2\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx &= \frac{1}{2} \int_0^1 (1 + \cos \pi x) dx \\ &= \frac{1}{2} \left[x + \frac{1}{\pi} \sin \pi x \right]_0^1 \\ &= \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$I = \int_0^1 x^2 \cos^2\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx$ において, $x = \frac{2}{\pi}t$ と置換すると,

$$\begin{aligned} I &= \frac{8}{\pi^3} \int_0^{\frac{\pi}{2}} t^2 \cos^2 t dt \\ &= \frac{8}{\pi^3} \left[t^2 \sin t + 2t \cos t - 2 \sin t \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{2}{\pi} - \frac{16}{\pi^3} \end{aligned}$$

$J = \int_{-1}^1 \left\{ \frac{\pi}{2} \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) - (pf(x) + q) \right\}^2 dx$ において, $p = \frac{\pi}{2}r$, $q = \frac{\pi}{2}s$ とおくと,

$$\begin{aligned} J &= \frac{\pi^2}{4} \int_{-1}^1 \left\{ \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) - (rf(x) + s) \right\}^2 dx \\ \frac{4}{\pi^2} J &= \int_{-1}^1 \left[\cos^2\left(\frac{\pi x}{2}\right) + r^2 \{f(x)\}^2 + s^2 - 2rf(x) \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) - 2s \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) + 2rsf(x) \right] dx \end{aligned}$$

これまでの計算結果を用いると,

$$\begin{aligned} \frac{4}{\pi^2} J &= 1 + 6r^2 + 2s^2 - 4r \int_0^1 (3ax^2 - a) \cos\left(\frac{\pi x}{2}\right) dx - \frac{8}{\pi} s + 0 \\ &= 1 + 6r^2 + 2s^2 - 4ar \left(\frac{4}{\pi} - \frac{48}{\pi^3} \right) - \frac{8}{\pi} s \\ &= 6r^2 - 4ar \left(\frac{4}{\pi} - \frac{48}{\pi^3} \right) + 2s^2 - \frac{8}{\pi} s + 1 \\ &= 6 \left\{ r - \frac{a}{3} \left(\frac{4}{\pi} - \frac{48}{\pi^3} \right) \right\}^2 + 2 \left(s - \frac{2}{\pi} \right)^2 + (\text{定数}) \end{aligned}$$

したがって、 J が最小となる条件は、

$$\begin{aligned} r &= \frac{a}{3} \left(\frac{4}{\pi} - \frac{48}{\pi^3} \right) \\ &= \frac{5\sqrt{3}}{18} \left(\frac{4}{\pi} - \frac{48}{\pi^3} \right) \\ s &= \frac{2}{\pi} \end{aligned}$$

$p = \frac{\pi}{2}r$, $q = \frac{\pi}{2}s$ に代入して、

$$p = \frac{5\sqrt{3}}{9} - \frac{20\sqrt{3}}{3\pi^2}, \quad q = 1$$

II

O を原点とする xyz 空間において以下の各問いに答えよ.

問1 点 $\left(1, -\frac{\sqrt{5}}{2}, \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)$ を通り, ベクトル $\vec{n} = (-2, \sqrt{5}, \sqrt{3})$ に垂直な平面 α の方程式を求めよ.

問2 ベクトル $(0, 0, 1)$ と問1の \vec{n} とのなす角 θ を求めよ.

問3 連立不等式 $z \geq 0, x^2 + y^2 + z^2 \leq 9$ で表される図形を, 問1の平面 α によって2つの部分に分割するとき, 点 $(0, 0, 3)$ を含む部分の体積を求めよ.

解答

問1 点 A $\left(1, -\frac{\sqrt{5}}{2}, \frac{3\sqrt{3}}{2}\right)$ を通り, $\vec{n} = \begin{pmatrix} -2 \\ \sqrt{5} \\ \sqrt{3} \end{pmatrix}$ に垂直な平面 α 上の点を $P(x, y, z)$ とおけば, $\vec{AP} \cdot \vec{n} = 0$

$$\text{より, } 2x - \sqrt{5}y - \sqrt{3}z = 0.$$

問2 $\vec{d} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ とおき, \vec{d} と \vec{n} とのなす角を θ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$) とおく. $|\vec{n}| = 2\sqrt{3}$ であるから,

$$\cos \theta = \frac{\vec{d} \cdot \vec{n}}{|\vec{d}| |\vec{n}|} = \frac{1}{2}.$$

したがって, $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ より $\theta = 60^\circ$.

問3 $z \geq 0, x^2 + y^2 + z^2 \leq 9$ で表される半球体を平面 α で切るとき, 平面 $z = 0$ と α とのなす角は, 問2より 60° である.

すなわち, 求める立体の体積は, 半径 3 の球体を 3 分割したものであり,

$$\frac{4}{3}\pi \cdot 3^3 \times \frac{1}{3} = 12\pi.$$

III

正の実数 t, k に対して、座標平面上の点 $T_t(k)$ を次で定める。

$$T_t(k) = \left(\frac{k}{1+t^2k^2}, \frac{tk^2}{1+t^2k^2} \right)$$

また、各 k に対して、 t が正の実数全体を動くときの点 $T_t(k)$ の描く曲線を $C(k)$ とする。このとき、以下の各問いに答えよ。

問 1 次の ～ に適する数または式を解答欄に記入せよ。答えのみでよい。

$C(k)$ は点 (,) を中心とする、半径が

問 2 各 t に対して、点 $T_t\left(\frac{1}{2}\right)$ における $C\left(\frac{1}{2}\right)$ の法線を $l_1(t)$ 、点 $T_t(1)$ における $C(1)$ の法線を $l_2(t)$ とする。このとき、2 直線 $l_1(t), l_2(t)$ の方程式をそれぞれ求めよ。答えのみでよい。

問 3 問 2 の 2 直線 $l_1(t), l_2(t)$ の交点 $P(t)$ の座標を求めよ。答えのみでよい。

問 4 t が正の実数全体を動くとき、問 3 で定めた点 $P(t)$ が描く曲線は、 x 軸上に 2 つの焦点をもつ楕円の一部であることを示し、その焦点の座標、長軸の長さ、短軸の長さをそれぞれ求めよ。

解答

$$T_t(k) = \left(\frac{k}{1+t^2k^2}, \frac{tk^2}{1+t^2k^2} \right)$$

問 1 $x = \frac{k}{1+t^2k^2}$ …… ①, $y = \frac{tk^2}{1+t^2k^2}$ を用いて、 $t > 0, k > 0$ より、

$$y = tkx \iff t = \frac{y}{kx}$$

これを ① に代入し整理すると、

$$\begin{aligned} x &= \frac{k}{1 + \left(\frac{y}{kx}\right)^2 k^2} \iff x^2 + y^2 - kx = 0 \\ &\iff \left(x - \frac{k}{2}\right)^2 + y^2 = \frac{k^2}{4}. \end{aligned}$$

したがって、 $C(k)$ は点 $\left(\frac{k}{2}, 0\right)$ を中心とし、半径 $\frac{k}{2}$ の円の一部である。

問 2 $C(k)$ の中心を $A(k)$ とおく。

$k = \frac{1}{2}$ のとき、 $A\left(\frac{1}{2}\right)$ は $\left(\frac{1}{4}, 0\right)$ 、 $T_t\left(\frac{1}{2}\right)$ は $\left(\frac{2}{4+t^2}, \frac{t}{4+t^2}\right)$ であり、点 $A\left(\frac{1}{2}\right)$ と点 $T_t\left(\frac{1}{2}\right)$ を結ぶ直線が求める法線なので、これを求めて

$$l_t(t) : 4tx - (4 - t^2)y - t = 0$$

また、 $k = 1$ のとき、 $A(1)$ は $\left(\frac{1}{2}, 0\right)$ 、 $T_t(1)$ は $\left(\frac{1}{1+t^2}, \frac{t}{1+t^2}\right)$ であり、点 $A(1)$ と点 $T_t(1)$ を結ぶ直線が求める法線なので、これを求めて

$$l_2(t) : 2tx - (1 - t^2)y - t = 0.$$

問 3 問 2 の 2 直線の交点を求めると、 $\left(\frac{3}{2(t^2+2)}, \frac{t}{t^2+2}\right)$ である。

問4 $x = \frac{3}{2(t^2+2)}$, $y = \frac{t}{t^2+2}$ とおく. 点 (x, y) が存在する図形の方程式は, 2式より,

$$y = \frac{2x}{3} \cdot t \iff t = \frac{3y}{2x}$$

これを第1式に代入し,

$$\begin{aligned} x = \frac{3}{2 \left\{ \left(\frac{3y}{2x} \right)^2 + 2 \right\}} &\iff 8x^2 - 6x + 9y^2 = 0 \\ &\iff \frac{\left(x - \frac{3}{8} \right)^2}{\frac{9}{64}} + \frac{y^2}{\frac{1}{8}} = 1. \end{aligned}$$

したがって求める方程式は楕円であり, その焦点の座標は $\left(\frac{1}{4}, 0 \right)$, $\left(\frac{1}{2}, 0 \right)$.

長軸の長さは $\frac{3}{4}$, 短軸の長さは $\frac{\sqrt{2}}{2}$ である.

IV

初期時刻 0 で白球が 3 個あり、以下の規則で定まる確率に従って球の色が白から黒、また黒から白に変化するものとする。以下では、各時刻 n ($n = 0, 1, 2, 3, \dots$) での白球の個数を $w(n)$ 、黒球の個数を $b(n)$ と表し ($w(n) + b(n) = 3$)、また、実数 x は $0 < x < 1$ を満たすとす。

規則 1: $w(n) = 3$ または $w(n) = 2$ であるとき、時刻 n での各白球は時刻 $n + 1$ では $\frac{1}{3}$ の確率で黒球となり、 $\frac{2}{3}$ の確率で白球のままである。また、時刻 n での黒球は時刻 $n + 1$ では確率 x で白球となり、確率 $1 - x$ で黒球のままである。

規則 2: $w(n) = 1$ であるとき、時刻 n での白球は時刻 $n + 1$ では $\frac{2}{3}$ の確率で黒球となり、 $\frac{1}{3}$ の確率で白球のままである。また、時刻 n での各黒球は時刻 $n + 1$ では確率 1 で黒球のままである。

規則 3: $w(n) = 0$ であるとき、時刻 n での各黒球は時刻 $n + 1$ では確率 1 で黒球のままである。

各時刻 n ($n = 0, 1, 2, 3, \dots$) に対して、 $w(n) = 3$ である確率を p_n 、 $w(n) = 2$ である確率を q_n 、 $w(n) = 1$ である確率を r_n とする。このとき、以下の各問いに答えよ。

問 1 p_1, q_1 をそれぞれ求めよ。答えのみでよい。

問 2 次の連立漸化式が成り立つように、 $\boxed{\text{ア}} \sim \boxed{\text{エ}}$ に適する、 n に無関係な数または式を解答欄に吸入せよ。導出過程についても説明せよ。

$$\begin{cases} p_{n+1} = \boxed{\text{ア}} p_n + \boxed{\text{イ}} q_n \\ q_{n+1} = \boxed{\text{ウ}} p_n + \boxed{\text{エ}} q_n \end{cases} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

問 3 次の連立漸化式が成り立つような実数 α, β (ただし、 $\alpha < \beta$) の組を求め、 x を用いて表せ、答えのみでよい。

$$\begin{cases} p_{n+2} - (\alpha + \beta)p_{n+1} + \alpha\beta p_n = 0 \\ q_{n+2} - (\alpha + \beta)q_{n+1} + \alpha\beta q_n = 0 \end{cases} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

問 4 数列 $\{p_n\}, \{q_n\}$ の一般項を関数 $F(x), G(x), H(x), I(x)$ を用いて

$$\begin{cases} p_n = F(x)\alpha^n + G(x)\beta^n \\ q_n = H(x)\alpha^n + I(x)\beta^n \end{cases} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots)$$

と表したとき、 $F(x), G(x), H(x), I(x)$ を x の関数としてそれぞれ具体的に求めよ。答えのみでよい。

問 5 極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{q_n}$ が存在し、かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{q_n} < 1$ が成り立つための x に対する必要十分条件を求めよ。

解答

問 1 p_1 は白球 3 個すべてが白球のままである確率なので、 $p_1 = \left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{8}{27}$ 。

また、 q_1 は白球 3 個のうち 1 個が黒球に変化し、2 個は白球のままなので、 $q_1 = {}_3C_1 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{4}{9}$ 。

問 2 $w(n+1) = 3$ となるのは、

(ア) $w(n) = 3$ のとき、白球 3 個すべてが白球のままとなる： $\left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{8}{27}$

(イ) $w(n) = 2$ のとき、黒球 1 個が白球に変化し、白球 2 個は白球のままとなる： $x \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{4}{9}x$

のときである。

また、 $w(n+1) = 2$ となるのは、

(ウ) $w(n) = 3$ のとき、いずれか 1 個の白球が黒球に変化する： ${}_3C_1 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{4}{9}$

(エ) $w(n) = 2$ のとき, どの球の色も変化しない, または, 白球 2 個のうち 1 個が黒球に変化し, 黒球 1 個は白

$$\text{球に変化する: } \left(\frac{2}{3}\right)^2 (1-x) + {}_2C_1 \left(\frac{2}{3}\right) \left(\frac{1}{3}\right) \cdot x = \frac{4}{9}$$

のときである.

それぞれ互いに排反であるから

$$\begin{cases} p_{n+1} = \frac{8}{27}p_n + \frac{4}{9}xq_n \\ q_{n+1} = \frac{4}{9}p_n + \frac{4}{9}q_n \end{cases} \quad (n = 0, 1, 2, 3, \dots).$$

問 3 問 2 第 1 式より,

$$\begin{aligned} \frac{4}{9}q_n &= \frac{1}{x}p_{n+1} - \frac{8}{27x}p_n \\ \therefore q_{n+1} &= \frac{9}{4x}p_{n+2} - \frac{2}{3x}p_{n+1} \end{aligned}$$

であるので第 2 式に代入して

$$\frac{9}{4x}p_{n+2} - \frac{2}{3x}p_{n+1} = \frac{4}{9}p_n + \frac{1}{x}p_{n+1} - \frac{8}{27x}p_n$$

整理して

$$243p_{n+2} - 180p_{n+1} + (-48x + 32)p_n = 0$$

α, β は特性方程式 $243t^2 - 180t + (-48t + 32) = 0$ の 2 解である. 解の公式を用いて

$$t = \frac{10 \pm 2\sqrt{36x+1}}{27}$$

が得られる. よって, $\alpha < \beta$ より

$$\alpha = \frac{10 - 2\sqrt{36x+1}}{27}, \quad \beta = \frac{10 + 2\sqrt{36x+1}}{27}$$

問 4 問 3 を変形して p_n, q_n に関してそれぞれ

$$\begin{cases} p_{n+2} - \alpha p_{n+1} = \beta(p_{n+1} - \alpha p_n) \\ p_{n+2} - \beta p_{n+1} = \alpha(p_{n+1} - \beta p_n) \end{cases} \quad \dots\dots ①$$

$$\begin{cases} q_{n+2} - \alpha q_{n+1} = \beta(q_{n+1} - \alpha q_n) \\ q_{n+2} - \beta q_{n+1} = \alpha(q_{n+1} - \beta q_n) \end{cases} \quad \dots\dots ②$$

が得られる. ① について

$$\begin{cases} p_{n+1} - \alpha p_n = \beta^n(p_1 - \alpha p_0) \\ p_{n+1} - \beta p_n = \alpha^n(p_1 - \beta p_0) \end{cases}$$

となるので, 辺々引いて, $\alpha \neq \beta$ に注意すると,

$$p_n = \frac{\beta^n(p_1 - \alpha p_0) - \alpha^n(p_1 - \beta p_0)}{\beta - \alpha}.$$

したがって、問2の α, β および $p_0 = 1, p_1 = \frac{8}{27}$ を代入して

$$p_n = \frac{\beta^n \left(\frac{8}{27} - \frac{10 - 2\sqrt{36x+1}}{27} \cdot 1 \right) - \alpha^n \left(\frac{8}{27} - \frac{10 + 2\sqrt{36x+1}}{27} \cdot 1 \right)}{\frac{4\sqrt{36x+1}}{27}}$$

$$= \frac{\sqrt{36x+1} + 1}{2\sqrt{36x+1}} \alpha^n + \frac{\sqrt{36x+1} - 1}{2\sqrt{36x+1}} \beta^n.$$

よって、

$$F(x) = \frac{\sqrt{36x+1} + 1}{2\sqrt{36x+1}}, G(x) = \frac{\sqrt{36x+1} - 1}{2\sqrt{36x+1}}.$$

続いて、②について、①と同様にして

$$q_n = -\frac{3}{\sqrt{36x+1}} \alpha^n + \frac{3}{\sqrt{36x+1}} \beta^n.$$

よって

$$H(x) = -\frac{3}{\sqrt{36x+1}}, I(x) = \frac{3}{\sqrt{36x+1}}.$$

問5 $w(n+1) = 1$ となるのは、

(オ) $w(n) = 3$ のとき、白球3個のうち2つが黒球に変化し、1個は白球のままとなる： ${}_3C_2 \left(\frac{1}{3}\right)^2 \cdot \frac{1}{3} = \frac{2}{9}$

(カ) $w(n) = 2$ のとき、白球2個のうち1つが黒球に変化し、1個は白球のままとなり、黒球1個は黒球のままとなる場合と、白球2個がともに黒球に変化し、黒球1個が白球に変化する場合とがある：

$${}_2C_1 \left(\frac{1}{3}\right) \left(\frac{2}{3}\right) (1-x) + \left(\frac{1}{3}\right)^2 x = \frac{4-3x}{9}$$

(キ) $w(n) = 1$ のとき、白球1個は白球のままであり、黒球2個もともに黒球のままとなる： $\left(\frac{1}{3}\right) \cdot 1^2 = \frac{1}{3}$

のときである。

よって、それぞれ互いに排反であるから、

$$r_{n+1} = \frac{1}{3} r_n + \frac{4-3x}{9} q_n + \frac{2}{9} p_n.$$

問4より、 $p_n = F(x)\alpha^n + G(x)\beta^n, q_n = H(x)\alpha^n + I(x)\beta^n$ であるから、これを用いて、

$$r_{n+1} = \frac{1}{3} r_n + \left\{ \frac{2}{9} F(x) + \frac{4-3x}{9} H(x) \right\} \alpha^n + \left\{ \frac{2}{9} G(x) + \frac{4-3x}{9} I(x) \right\} \beta^n.$$

と表されるので、 $\frac{2}{9} F(x) + \frac{4-3x}{9} H(x) = J, \frac{2}{9} G(x) + \frac{4-3x}{9} I(x) = K$ とおく。すなわち、

$$r_{n+1} = \frac{1}{3} r_n + J\alpha^n + K\beta^n \quad \dots\dots ③$$

ここで、 $a_{n+1} = \frac{1}{3} a_n, a_n = r_n + s \cdot J\alpha^n + t \cdot K\beta^n$ を満たすような実数 (s, t) を定める。2式から

$$r_{n+1} + s \cdot J\alpha^{n+1} + t \cdot K\beta^{n+1} = \frac{1}{3} (r_n + s \cdot J\alpha^n + t \cdot K\beta^n)$$

$$\Leftrightarrow r_{n+1} = \frac{1}{3} r_n + s \left(\frac{1}{3} - \alpha \right) \cdot J\alpha^n + t \left(\frac{1}{3} - \beta \right) \cdot K\beta^n \quad \dots\dots ④$$

③ と ④ が一致するので, $s = \frac{3}{1-3\alpha}$, $t = \frac{3}{1-3\beta}$ である. このとき, $a_0 = r_0 + s \cdot J + t \cdot K = s \cdot J + t \cdot K$ より,

$$a_n = (s \cdot J + t \cdot K) \left(\frac{1}{3} \right)^n$$

$$\iff r_n = (s \cdot J + t \cdot K) \left(\frac{1}{3} \right)^n - s \cdot J \alpha^n - t \cdot K \beta^n$$

したがって,

$$\frac{r_n}{q_n} = \frac{(s \cdot J + t \cdot K) \left(\frac{1}{3} \right)^n - s \cdot J \alpha^n - t \cdot K \beta^n}{H(x)\alpha^n + I(x)\beta^n}$$

ここで, $|\alpha| < \beta$ であり, $0 < x < 1$ から,

$$\beta = \frac{10 + 2\sqrt{36x+1}}{27} > \frac{10 + 2 \cdot 1}{27} > \frac{1}{3}.$$

したがって, $\left| \frac{\alpha}{\beta} \right| < 1$, $\left| \frac{1}{3\beta} \right| < 1$ であり,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{q_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{(s \cdot J + t \cdot K) \left(\frac{1}{3\beta} \right)^n - s \cdot J \left(\frac{\alpha}{\beta} \right)^n - t \cdot K}{H(x) \left(\frac{\alpha}{\beta} \right)^n + I(x)}$$

$$= -\frac{t \cdot K}{I(x)}.$$

極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{q_n}$ が存在し, かつ $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{r_n}{q_n} < 1$ が成り立つための必要十分条件は,

$$0 < x < 1 \quad \text{かつ} \quad -\frac{t \cdot K}{I(x)} < 1$$

である.

$$-\frac{t \cdot K}{I(x)} = \frac{-\frac{3}{1-3\beta} \left\{ \frac{2}{9}G(x) + \frac{4-3x}{9}I(x) \right\}}{I(x)}$$

$$= \frac{-\frac{3}{1-3\beta} \left(\frac{2}{9} \cdot \frac{\sqrt{36x+1}-1}{2\sqrt{36x+1}} + \frac{4-3x}{9} \cdot \frac{3}{\sqrt{36x+1}} \right)}{\frac{3}{\sqrt{36x+1}}} < 1$$

$$\iff \frac{\sqrt{36x+1}-1}{9} + \frac{4-3x}{3} < 3 \cdot \frac{10+2\sqrt{36x+1}}{27} - 1$$

$$\iff 10-9x < \sqrt{36x+1}$$

$0 < x < 1$ であるから

$$(10-9x)^2 < 36x+1 \quad \text{かつ} \quad 0 < x < 1$$

$$\iff \frac{4-\sqrt{5}}{3} < x < \frac{4+\sqrt{5}}{3} \quad \text{かつ} \quad 0 < x < 1$$

$$\iff \frac{4-\sqrt{5}}{3} < x < 1$$

【補足】

確率漸化式を立てる問題では、もれなく重複なく漸化式を立てるために、先にすべての場合を求めておいた方が安全.

$w(n) = 3$ のとき

(i) 3個の白球がすべて白球にあるとき, $w(n+1) = 3$.

$$\left(\frac{2}{3}\right)^3 = \frac{8}{27}$$

(ii) 3個の白球のうち2個が白球のまま, 1個が黒球となるとき, $w(n+1) = 2$.

$${}_3C_2 \left(\frac{2}{3}\right)^2 \left(\frac{1}{3}\right) = \frac{12}{27}$$

(iii) 3個の白球のうち1個が白球のまま, 2個が黒球となるとき, $w(n+1) = 1$.

$${}_3C_1 \left(\frac{2}{3}\right)^1 \left(\frac{1}{3}\right)^2 = \frac{6}{27}$$

(iv) 3個の白球がすべて黒球となるとき, $w(n+1) = 0$.

$$\left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{1}{27}$$

$w(n) = 2$ のとき

(i) 黒球1個が白球に変化し, 白球2個は白球のままとなるとき, $w(n+1) = 3$

$$x \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{4}{9}x$$

(ii) どの色の球の色も変化しない, または, 白球2個のうち1個が黒球に変化し, 黒球1個は白球に変化するとき, $w(n+1) = 2$.

$$\left(\frac{2}{3}\right)^2 (1-x) + {}_2C_1 \left(\frac{2}{3}\right) \left(\frac{1}{3}\right) \cdot x = \frac{4}{9}$$

(iii) 白球2個のうち1個が黒球に変化し黒球はそのままとなる, または, すべての球が変化するとき, $w(n+1) = 1$.

$${}_2C_1 \left(\frac{2}{3}\right) \left(\frac{1}{3}\right) (1-x) + \left(\frac{1}{3}\right)^2 x = \frac{4-3x}{9}$$

(iv) すべての球が黒球に変化するとき, $w(n+1) = 0$.

$$\left(\frac{1}{3}\right)^2 (1-x) = \frac{1-x}{9}$$

$w(n) = 1$ のとき

(i) すべての球の色が変化しないとき, $w(n+1) = 1$

$$\frac{1}{3} \cdot 1^2 = \frac{1}{3}$$

(ii) すべての球が黒球に変化するとき, $w(n+1) = 0$

$$\frac{2}{3} \cdot 1^2 = \frac{2}{3}$$

$w(n) = 0$ のとき

(1) すべての球が黒球に変化するとき, $w(n+1) = 0$

$$1^3 = 1$$

これらの遷移を表にまとめると次のようになる.

	$w(n) = 3$	$w(n) = 2$	$w(n) = 1$	$w(n) = 0$
$w(n+1) = 3$	$\frac{8}{27}$	$\frac{4x}{9}$	0	0
$w(n+1) = 2$	$\frac{12}{27}$	$\frac{4}{9}$	0	0
$w(n+1) = 1$	$\frac{6}{27}$	$\frac{4-3x}{9}$	$\frac{1}{3}$	0
$w(n+1) = 0$	$\frac{1}{27}$	$\frac{1-x}{9}$	$\frac{2}{3}$	1
計	1	1	1	1

この表において, 縦に並べた確率の和は必ず 1 であり, 横に考えると漸化式が立つので,

$$p_{n+1} = \frac{8}{27}p_n + \frac{4x}{9}q_n$$

$$q_{n+1} = \frac{4}{9}p_n + \frac{4}{9}q_n$$

$$r_{n+1} = \frac{2}{9}p_n + \frac{4-3x}{9}q_n + \frac{1}{3}r_n$$

このように漏れなく漸化式を立てることができる.

講評

I (標準)

途中までは、素直に計算するだけの平易な問題であるが、最後の部分だけがかなり煩雑になり、正解にたどり着くまでに時間が掛かる。ここで、時間を大幅に使ってしまった受験生も多かったと考えられる。

II (標準) 問 1, 問 2 は

空間の平面の方程式に関する基礎問題である。問 3 が幾何考察と空間認識を少し必要とする問題で、ここだけ解けなかった受験生も多かったと考えられる。ただ、計算量が少ないのがこの大問 2 だけのため、一次突破のためにはなんとか完答したい問題である。

III (標準) 軌跡と楕円に関する基本問題であるが、

計算ミスをもつ起こすと、それを修正するのが困難な問題である。法線を接線と勘違いしてしまった受験生も多かったと思われる。ただし、内容は極めて基本的であるので、この大問 3 も完答したい問題である。

IV (難) 時間制限的にも厳しい問題である。

問 2 までではできても、その他との計算量が非常に多く、問 3 までできれば十分だろう。

全体として、方針は立ちやすいが、計算がしっかりできるかを問う問題構成になっている。常日頃から、正確な計算に拘って問題に取り組んでいるかを試す試験である。1 次合格ラインは 60 % 程度と考えられる。

本解答速報の内容に関するお問合せは


医学部専門予備校
YMS
 heart of medicine
 ☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
 東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校 **メビオ** ☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校 **英進館メビオ** 福岡校 ☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

